
罪深き綻び-CLHN'2f (of Bleach)

愛威慈郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

罪深き綻び - CLHN - 2 f (of Bleach)

【コード】

N3431G

【作者名】

愛威慈郎

【あらすじ】

「漂白」@薔薇を象る第2従属官を元に考えた詩です。

(前書き)

平伏しなさい

茨が空を埋める前に

皇女は夢をみた

蒼穹を埋め尽くした薔薇が
己のその刺に毒されて
頂垂れた花弁に滴る孤独を
蜜を啜る蜂の如く
傲慢であり
全てに定められた撮服を待っているのだ

艶やかで
欺きの軸を知らぬ

それはまるで
毒を持たない娼婦のように

心とは「美」という言葉に似ている
心は美しさを理解出来、
美しきは心を満開の花にも
屍にも出来る

最も美しく
最も残酷

それ故の心

黒と白は呼応を繰り返す
近くに在りながら融けあえず
遠過ぎる程に互いを求める

解り合えぬから真実で
似ているから偽りなのだ

蔦を滴り獲物を誘い
暗黒の茨が狂気を喰らう

連続される空虚と劣等感
何者も逃れようとはしない

その愚弄な真実を理解出来ぬ事は
哀れみにさえ値する

言葉は常に重みとなり
静寂は常に心変わりの仮面を穿つ

聖なる城に姫はいない
羽を持たぬ花が己の最期を看取るように
存在するのは亀裂を追う蔓の哀愁
黒き花が純白の種を落とすとき
私という“美”が完成を遂げる

醜きを敗北に喩えるならば
綻びた蕾は噤む屍の腐食

心は終始、戒めの俘囚となり
欺罔を繰り返す形骸と化す

狼狽えてはならない
白き花蕊が漆黒の蜜を零すとき
私という芽が産声をあげる

劣るに足らず

悲哀は伝わりもしない

皇女は夢をみた

月光を呑み込んだ薔薇が
己のその姿に魅せられて
劈く刃に染み込む暁光を
神を覗く人の如く

嬌傲であり

蒼天に縛られた太陽を待っているのだ

撓やかで

沈黙の生命を知らぬ

それはまるで

悟り死した童女のように

私は包まれた

夜光に、

灼熱に、

私は吞まれた

真実に、

己の正義に

(後書き)

煌めく刃に捧ぐ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3431g/>

罪深き綻び-CLHN'2f (of Bleach)

2010年10月15日17時26分発行